



## 町長室から こんにちは

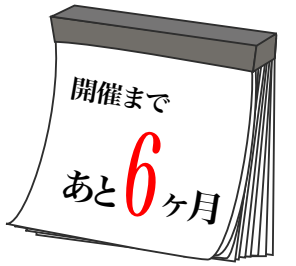
新得町長 浜田正利

2月の出来事から3点報告します。  
1点目は、2月26日に昨年10月1日に実施した国勢調査が公表（速報値）されました。全国で1億2711万47人と、前回より94万7305人減少となりました。総人口が減少となったのは、大正9年（1920年）の調査開始から初めてのことです。人口増は沖縄県、東京都など8都県に止まり、残り39道府県が人口減少になり、予想をしていた事が現実的になりました。結果からは、現役世代が減少する事で、税収の先細りや更なる働き手の不足など、社会構造の大きな変化が見えてきています。新得町においても6290人で前回より36人減少しています。町内でも介護職員をはじめとした、各分野での慢性的な人材不足が一層深刻になると考えています。今後の対応は移住対策など既存の政策の一層の実行と、人間に代わるロボットの導入を含め、現在の組織、サービスの在り方など、

全ての事に関して様々な角度から、様々な事を考えていかなければと強く感じています。  
2点目は、同じ日に管轄面積が1万800平方キロメートルで、全国の消防組織の中で日本一の広さを持ち、十勝19市町村で構成する「とかち広域消防事務組合」が、本年4月1日から業務をスタートするにあたり、関連する予算と条例改正のための議会が開催されました。職員体制は、帯広に設置されます消防本部には68名、19市町村の消防署勤務職員624名、この他に組合事務局職員2名の合計694名、また、約280台の消防関係車両、約40台の救急車を保有する組織になります。設立の目的であります、初動体制の強化や財政負担の軽減などが図られるよう、万全の体制で臨みますが、新しい体制に慣れるまで多少時間が必要とも感じています。何か気がついたことがあれば、ご意見をいただきたいと思っています。  
3点目は、2月15日に高橋はるみ知事が来町され、開設から20年を迎えたレディースファームスクールの現役生、修了生と懇談をする機会がありました。高橋知事自身も女性でもあり、農業の中で女性の元気とやる気について、興味を示されながら意見が交わされました。また、16日には北海道が主催しています「2015年度女性・高齢者チャレンジ活動表彰」に上佐幌の湯浅優子さんが進めてきた、ファームインやスローフードの活動が評価され、優秀賞に選ばれました。女性の元気とやる気を強く感じた出来事でした。

## 第15回 しんとく新そば祭り 併催 第22回日本そば博覧会 in十勝新得町

平成28年9月19日(日)～9月25日(日)  
新得町保健福祉センター「なごみ」前駐車場 他



9月19日から25日までの7日間の日程で開催される「日本そば博覧会in十勝新得町」。

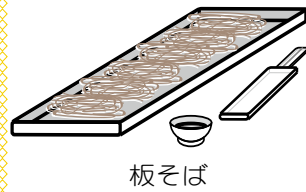
手打ちそば店が出店するのは、そのうちの24日、25日の「第15回しんとく新そば祭り」が開催される2日間です。7日間全ての日程で「手打ちそば」が食べられる訳ではないので、来場する際は注意が必要です。町外の知人・友人などにお知らせする際も「手打ちそばが食べられるのは土・日だよ」と伝えていただけると混乱も少なくなるのではありません。そば博覧会期間中、いろいろなイベントが予定されていますので、そばに関する様々なことに触れてみるのはいかがでしょうか。

今回は例年、新そば祭りに出店している町内の手打ちそば店以外にも、道内や道外のそばの産地からの出店も予定されているようです。どこの地域から出店してくるか楽しみです。

新得町の開拓の祖、村山和十郎

さんの出身である山形県では「板そば」が広く食べられています。昔、農作業などの共同作業や集会后に大勢でそばを囲むように、大きな長い板や木箱にそばを盛り付け振舞ったのが由来とされ、ざるではなく木で作られた長方形の浅い箱状の器に薄く均一に盛られるのが特徴のようです。東根市の北隣の村山市では、毎年10月中旬に開催されている「伝承館まつり」で、日本一の長板そば三十三間堂で、三十三間（約60メートル）の長板に盛り付けられた手打ちそばを30人以上が並んで一斉に食べるイベントがあります。過去には長さ90メートルの長板に盛った約130キログラムのそばを約600人で一斉に食べて、ギネス世界記録に認定されているそうです。

そばの盛り付け方一つとっても全国津々浦々で、様々な伝統的なスタイルがあるのはとても興味深いです。



郷土の歴史を  
新得町郷土研究会が  
ご紹介いたします  
一緒に  
歴史の散歩に  
出掛けましょう  
No. 6  
「狩勝峠地蔵尊」

官設鉄道十勝線の新得落合間（旧狩勝線）は明治40年9月8日に開通、敷設工事は固い岩盤、出水などに悩まされました。また、列車の安全走行を守る保線の仕事も、多くの危険と困難を伴うものでした。

厳冬の昭和7年2月26日、狩勝トンネル東口（新得側）にできた雪庇を取り除く作業をしていた2人の保線区員が、雪崩に巻き込まれて殉死するという痛ましい事故がありました。狩勝保線分区朝岡末治分区長）では、作業の安全を祈り、死者の霊を慰めるため翌昭和8年2月12日、国道38号線沿いの佐幌岳登山口付近に地蔵尊を建立、毎年8月24日に慰霊祭を行ってきました。

その後、心ない旅行者により地蔵尊が壊れるという出来事があり、昭和32年ごろ新しい像に造り変えられました。それを彫ったのが、かつて保線区で働いていた阿部喜之助さんと言われています。しかし、鉄道の保線に伴うこうした事故は、鉄道が開通して間もないころから起きていました。このため保線区では、ほかの殉職者の霊と一緒に祀ろうということになり、古くは明治42年に雪崩で殉職された方や、近年では昭和42年に新得山トンネルで線路巡検中に亡くなられた方など19人が祀られています。

国道38号線の改良舗装工事が清水町との境界から狩勝峠に向かつて始まり、地蔵尊が工事の支障になるため昭和41年10月1日、狩勝峠展望台から南へ約100m入った現在地に移設されました。現在そこには、犠牲になられた19人の名前を記した由来板が立てられています。また、地蔵尊のかたわらには、新得寺清野泰幹元住職の歌を記した看板があります。



狩勝峠地蔵尊のお祭り  
(昭和32年8月24日)

## 短歌

新得短歌会

七重八重煙めく花火押し花の  
額を飛び出し宙を彩どる  
荒木 風月

お弁当お握りお豆お楽しみ  
お茶をすすりつお新香かじる  
岡田御狸裸

ドクターの片手にのりし夫の闇  
道を照らして心一つに  
小野 恭子

巻き風の湧き立つ丘の枝ゆらし  
陽射し牙かに車窓に見れば  
奇藤美代子

さりげなく子らから届く花メール  
今日からわれも前期高齢  
菊地 康雄

無人駅駐輪箇所数多なる  
放置自転車雪融けを待つ  
小関 白潮

肩凝りにお手玉効くと聞きをれば  
三個作りて少女に還へる  
小野 洋子

雨と雪交互に降りて悪路なり  
足ゆびぎゅっとつかみて歩く  
樋口かおり

## 俳句

新得俳句同好会

早春の浮雲ぐらし夫婦して  
片桐 波月

病む姉に一枝そえて猫柳  
袴田ゆき男

又一戸離農のうわさ春寒し  
八木 育子

寒の水すって字経の人となる  
高橋 民女

雪に群れ老いも若きもゲレンデへ  
奇藤 青苔

齢の数ほどは喰われぬ節分の豆  
月井 愁峰

トシネルの水筒に映す過去の影  
大崎かずお

花咲爺伝五郎の業績継ぐ保存会  
丹羽 鶴松

抽斗の宇宙の闇や種袋  
中島 土方